

令和5(2023)年度現代文化学部 卒業時アンケート調査集計結果

I R 委員会
I R 課

I. 現代文化学部卒業時アンケート調査の概要

1. 目的

- 1) 学生自身が4年間の現代文化学部における学びを振り返り、現代文化学部の教育、支援及び自己の成長について評価する。
- 2) 1)の結果に基づき、現代文化学部の継続的な教育改善に役立てる。

2. 実施

- 1) 対象：東京純心大学現代文化学部 令和5(2023)年度卒業生 25名
- 2) 時期：令和6(2024)年2月3日(土)
- 3) 配付・回収方法：令和6(2024)年2月5日の卒業論文・研究・制作発表会の全体説明にて配付、回答後回収
- 4) 回収状況：24名(2020年度入学生25名)回収率96%

3. 質問項目

- 1) DP(「ディプロマ・ポリシー：卒業認定・学位授与に関する方針」)の習得状況に関する自己評価
- 2) 現代文化学部の教育(講義・演習・実習・初年次教育)改善の必要性について
- 3) 現代文化学部の支援について
- 4) 学生の成長について
- 5) 現代文化学部の教育に対する満足の程度について

II 調査結果

1. DP(ディプロマ・ポリシー：卒業認定・学位授与に関する方針)の自己評価について

		いる ①身 に つ い て	につ い て る ②あ る 程 度 身	い え な い ③ど ち ら と も	つ い て い な い ④あ ま り 身 に	い な い ⑤身 に つ い て
D P 1	豊かな感性と教養の土台の上に、保育・教育の高度な知識と技術を身につけ、「子ども・からだ・あそび」のキーワードを通して主体的に思考することができる。		豊かな感性と教養	11 (46%)	13 (54%)	0 (0%)
			保育・教育の高度な知識と技術	6 (25%)	17 (71%)	1 (4%)
			子どものからだ、こころ、あそびを理解して主体的に思考する力	9 (38%)	15 (63%)	0 (0%)
D P 2	子どもの幸せと平和の実現のために、多様な背景や文化を持つ地域の人々と痛みや喜びを分かち合い、創造的なコミュニケーションを通して表現できる。		子どもの幸せと平和を願い求める力	16 (67%)	6 (25%)	2 (8%)
			地域の人々と痛みや喜びを分かち合う力	7 (29%)	16 (67%)	1 (4%)
			創造的なコミュニケーション能力	10 (42%)	13 (54%)	1 (4%)
D P 3	保育者としての高度な専門性に裏付けられた「愛に根ざした真の知恵」を持って主体的に判断し、多文化共生社会を生きる子どもたちの命を守り育てることができる。		保育者としての高度な専門的な知識や技能	6 (25%)	18 (75%)	0 (0%)
			「愛に根ざした真の知恵」を持って主体的に判断する力	10 (42%)	12 (50%)	2 (8%)
			子どもの命を守り育てる力	11 (48%)	12 (52%)	0 (0%)

☞ 全てのD Pの資質・能力に関して、「①身についている」、「②ある程度身についている」と回答したものと合わせると90%以上となっている。

D P達成状況

		いる ①身に ついて いる	につい て る ②ある 程度身	いえ ない ③ど ちらとも	ついて てい ない ④あ まり身	い ない ⑤身に ついて
DP1	豊かな感性と教養の土台の上に、保育・教育の高度な知識と技術を身につけ、「こども・からだ・遊び」のキーワードを通して主体的に思考することができる。	26 (36%)	45 (63%)	1 (1%)	0 (0%)	0 (0%)
DP2	子どもの幸せと平和の実現のために、多様な背景や文化を持つ地域の人々と痛みや喜びを分かち合い、創造的なコミュニケーションを通して表現できる。	33 (46%)	35 (49%)	4 (6%)	0 (0%)	0 (0%)
DP3	保育者としての高度な専門性に裏付けられた「愛に根ざした真の知恵」を持って主体的に判断し、多文化共生社会を生きる子どもたちの命を守り育てることができる。	27 (38%)	42 (59%)	2 (3%)	0 (0%)	0 (0%)

☞ 「①身についている」、「②ある程度身についている」と回答したものを合わせると、「D P 1」が99%、「D P 2」が94%、「D P 3」が97%と、いずれも高い割合になっている。

【参考】ディプロマ・ポリシー達成状況（自己評価）とディプロマ・ポリシーに関わる学修評価

		自己評価 Lv. 0-4	学修評価 Lv. 1-4
DP1	豊かな感性と教養の土台の上に、保育・教育の高度な知識と技術を身につけ、「こども・からだ・遊び」のキーワードを通して主体的に思考することができる。	3.35	2.63
DP2	子どもの幸せと平和の実現のために、多様な背景や文化を持つ地域の人々と痛みや喜びを分かち合い、創造的なコミュニケーションを通して表現できる。	3.40	2.91
DP3	保育者としての高度な専門性に裏付けられた「愛に根ざした真の知恵」を持って主体的に判断し、多文化共生社会を生きる子どもたちの命を守り育てることができる。	3.35	2.77

*自己評価は「①身についている」を4点、「②ある程度身についている」を3点、「③どちらともいえない」を2点、「④あまり身についていない」を1点、「⑤身についていない」を0点として換算
学修評価は、各ディプロマ・ポリシーを達成する必修科目の評価G Pの平均

2. 現代文化学部の教育（講義・演習・実習・初年次教育）改善の必要性について

		①改善の必要がある	②改善の必要はない	③どちらともいえない
1)	4年間の講義について	4 (18%)	15 (68%)	3 (14%)
2)	4年間の演習について	2 (8%)	20 (83%)	2 (8%)
3)	4年間の実習について	4 (17%)	17 (71%)	3 (13%)
4)	現代文化セミナーについて	1 (4%)	18 (75%)	5 (21%)

☞現代文化学部の教育（講義・演習・実習・初年次教育（現代文化セミナー））の改善の必要性について、「②改善の必要がない」と回答した割合はいずれも概ね70%以上であり、「①改善の必要がある」と回答した割合は、講義、実習が20%弱、演習、初年次教育は10%以下である。

3. 現代文化学部の支援

		①とても充実していた	②充実していた	③どちらともいえない	④あまり充実していなかった	⑤充実していないなかった
(1)	アドバイザーによるサポート・相談について	9 (43%)	11 (52%)	1 (5%)	0 (0%)	0 (0%)
(2)	進路・就職に対するサポート・相談について	11 (52%)	5 (24%)	4 (19%)	1 (5%)	1 (5%)
(3)	卒業論文・研究・制作に対する支援について	14 (67%)	4 (19%)	3 (14%)	0 (0%)	0 (0%)

☞ 「①とても充実していた」、「②充実していた」と回答したものを合わせると、「(1) アドバイザーによるサポート・相談」が95%、「(2) 進路・就職に対するサポート・相談」が76%、「卒業論文・研究・制作に対する支援」が86%と、いずれも高い割合になっている。

4. 本学での学びや体験を通して、入学時と比べた成長の程度

	①とても成長した	②成長した	③どちらともいえない	④あまり成長しなかった	⑤成長しなかった
本学での学びや体験を通して、入学時と比べてどの程度成長したか。	8 (38%)	10 (48%)	2 (10%)	1 (5%)	0 (0%)

☞ 86%の学生が「①とても成長した」または「②成長した」と回答している。

5. 現代文化学部の教育に対する満足の程度

	①とても満足している	②満足している	③どちらともいえない	④あまり満足していない	⑤満足していない
現代文化学部の教育に満足しているか。	5 (24%)	12 (57%)	4 (19%)	0 (0%)	0 (0%)

☞ 「①とても満足している」、「②満足している」と回答したものを合わせると81%と高い割合になっている。